

1 研究主題・副題

「 21世紀を生き抜く力を育てる授業 ～深い学びを求めて～」

◎「21世紀を生き抜く力」とは・・・学習指導要領の理念である「生きる力」を実効的に獲得することを目指し、生きる力を構成する知・徳・体の三要素から、特に教科等横断的に育成が求められる資質・能力に注目して取り出し、それらを「基礎力」「思考力」「実践力」の三層で構成したもの。

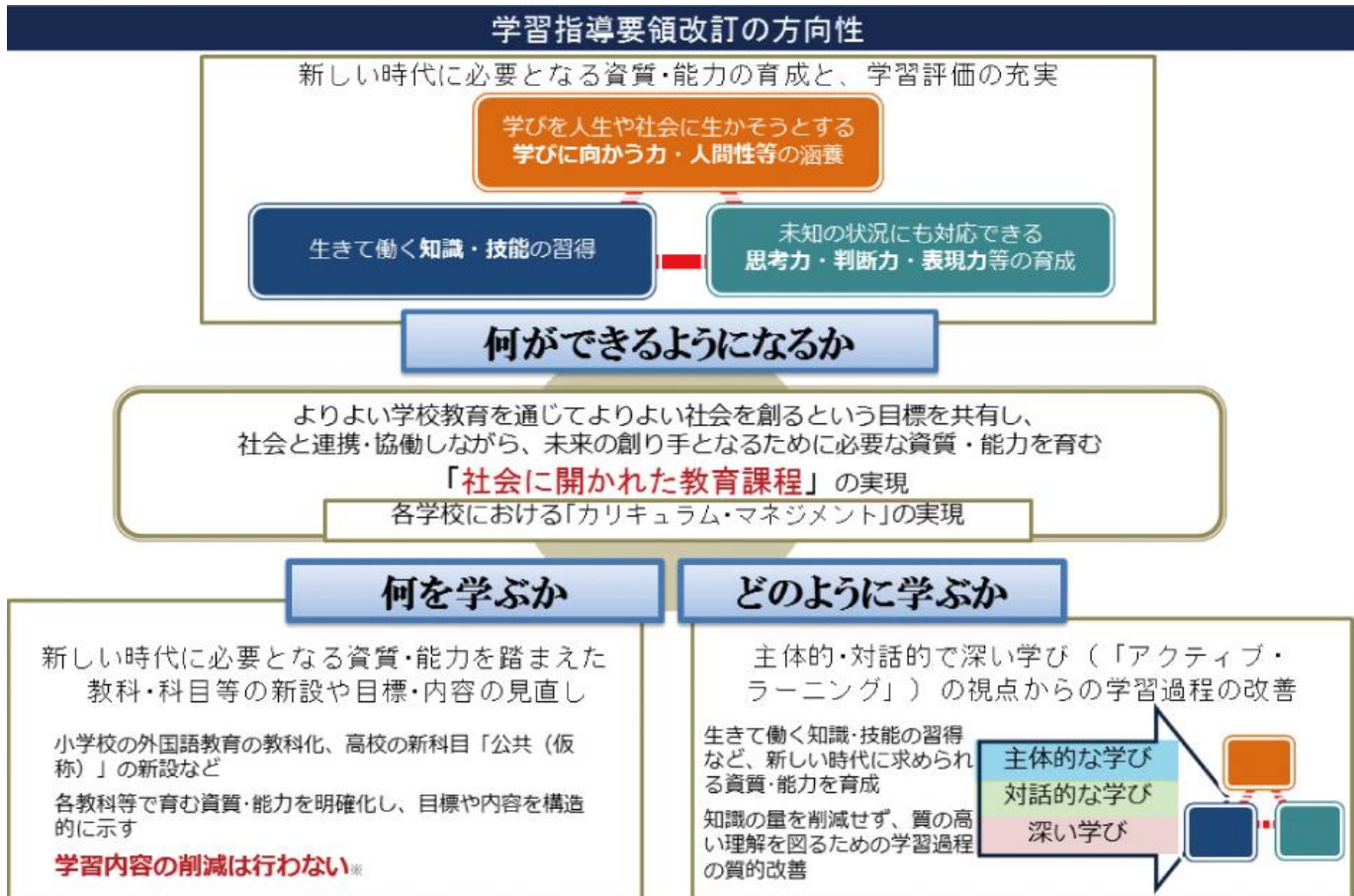
「基礎力」「思考力」「実践力」を、本校では以下のように捉えている。

「基礎力」 言語・数・情報を目的に応じて道具として使いこなす力

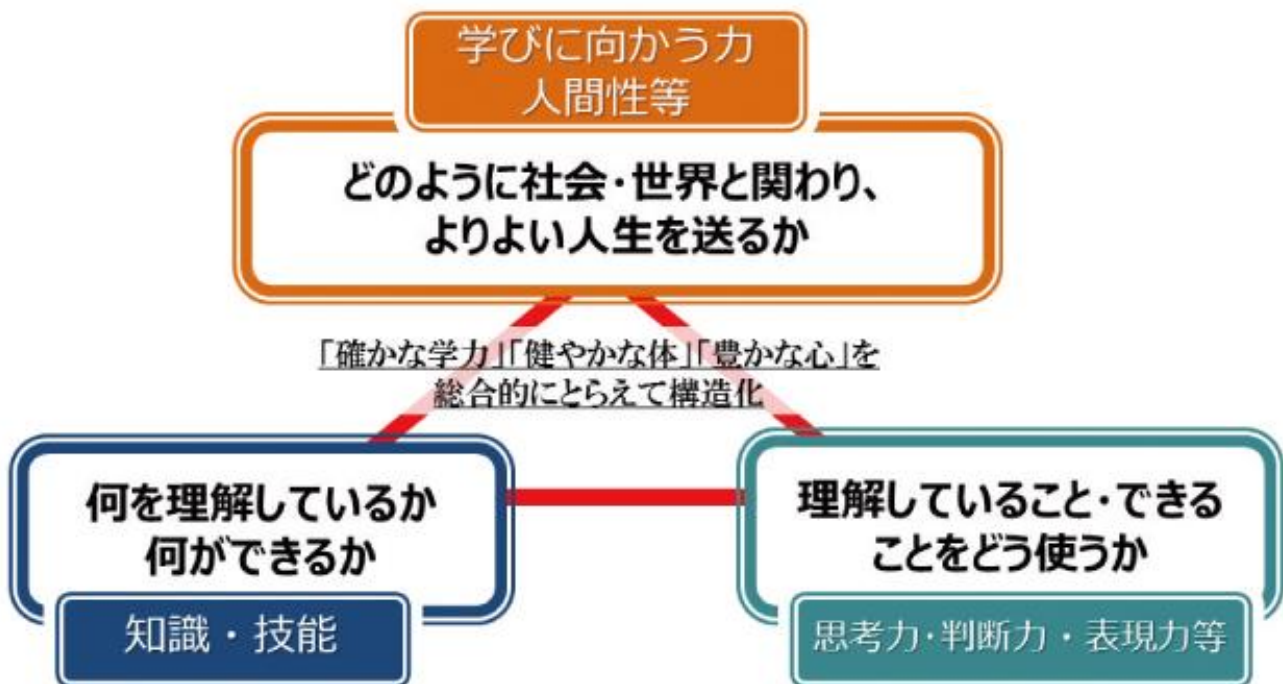
「思考力」 一人一人が自ら学び判断し自分の考えをもって、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解^{*}や新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見つける力

「実践力」 日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分の知識を最大限に活用して、自分や社会にとって価値のある解を導くことができる力

^{*}「よりよい解」とは、一人がリーダーとなり決断して答えを出すのではなく、自分なりに考えた解をそれぞれが持ち寄り、それらを総合的に判断・議論して、解を創り出すこと。



^{*}高校教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。



2 目指す子どもの姿

- 意欲的に他と関わり、自分の考えを広げ、深めることができる子ども
- 自ら問いをもち、進んで考えたり、問題解決をしたりできる子どもとして、提案させていただきます。

3 研究仮説と手立て

《研究仮説：国語科部会・理科部会》

【仮説1】

「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

【仮説1】に対する手立て

《国語科》

- 手立て①自ら読む力を高めるために、「国語のたからもの」を活用して読み方を具体的実践で指導する。
- 手立て②自ら「問い」を発見し、解決していく言語活動を設定する。
- 手立て③教師の目標(ねらい)と児童の目的(めあて)を明確に設定する。

《理科》

- 手立て①単元の導入において、後に習得する知識・技能を活用する課題を示す。
- 手立て②習得した知識・技能を適用させる活用課題を設定する。

【仮説 2】

伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

【仮説 2】 に対する手立て

《国語科》

手立て④考えを広げたり深めたりできるような
伝え合い活動を授業の中に設定する。

手立て⑤伝え合い活動による自分の考えの変容
を、表現する場を設定する。

《理科》

手立て③実験や観察の結果から得た知識や技
能を自ら活用し、考察を論理的にまと
める学習活動を重視する。

手立て④少人数グループでの話し合い活動
を取り入れ、自分の考えを分かりやすく
伝え、また、相手の考えを理解し、よ
りよい解や解決方法を導き出す場面
を設定する。

《研究仮説：特別支援教育部会》

【仮説 1】

「目的意識」をもたせる単元構成や、興味・関心のあることや、得意なことを生かす学習活動を積み重ねることで、学んだことを別の学習場面や日常生活の中で活用する力を高めることができるだろう。

【仮説 1】 に対する手立て

手立て①これまでの学習を振り返り、学習へのイメージをもてるようにし、内容や場は違っても繰り返し同じ体験ができる機会をつくる。

手立て②個の特性、興味・関心に応じた教材を提供する。

手立て③活動のゴールを示し、そこまでの過程を明確化や視覚化する。

【仮説 2】

友達と協力する場を工夫することで、個に応じたコミュニケーション能力を高めることができるだろう。

【仮説 2】 に対する手立て

手立て③自分の思いや願い、お互いのがんばりを表現、発表する場を設定する。

手立て④グループ活動の中で、それぞれがコミュニケーションしやすい手段を用いながら活動できるようにする。